



大学の貢献

学生と経営者がツナガル！交流会



2022年10月12日、山口大学吉田キャンパスにおいて、地域未来創生センター若者定着促進室主催の"学生と経営者がツナガル！交流会"を開催しました。本企画は、地元企業の経営層の方と共通のテーマを通じて交流することで、山口県内にも色々な企業があること、そして地元企業が行っている事業や社会貢献等の取組を知ってもらうことを目的としています。今回は、「SDGsについて考えよう」をメインテーマに、キャリアパートナー企業2社の経営層の方々と人文学部、教育学部、国際総合科学部の学生11名が参加しました。

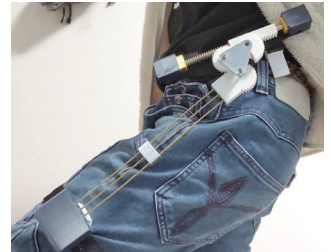
第1部では、『SDGsと山口の課題（各企業の取組をどう見るか？）』と題して、山口大学副学長補佐（国際連携）富本幾文教授が講演しました。SDGsの観点から見た山口県の課題や、地元企業が取り組むSDGsの事例、山口大学におけるSDGs推進といった話題に、参加者は熱心に耳を傾けていました。第2部では、株式会社秋川牧園 経営管理部次長の黒瀬友伸氏、株式会社カドス・コーポレーション 取締役管理部部長の那須聖氏から、SDGsに関する自社の取組事例について紹介がありました。

続いて、学生と経営者混合の小グループに分かれて、各社の取組事例を踏まえて質疑応答や意見交換を行いました。自身の専攻に関連する質問や、学生ならではの視点からの意見などを通じて、積極的に企業との交流を深めました。そして、学生からは、「私たちは中高生の頃からSDGsやサステナビリティといった言葉に馴染みがある世代。そういう世代だからこそ考えられることがあると思った。」「今日学んだことを、今後のキャリアデザインや大学での勉強に活かしていきたい。」「私は来年から教育者になるので、SDGsの4番目の目標「質の高い教育をみんなに」の実現に向けて勉強を続けていきたい。」といった感想が述べられました。

おもしろプロジェクト

Mechanical Suits ~lucky~

歩くことを補助する腰装着型の補助スーツを、3Dプリンターなどを用いて制作します。自転車と歩行の中間の移動手段はないだろうか？ と考え、思い付いたのが歩行補助スーツです。このスーツは歩く動作を補助し、楽に長距離を歩けるようにします。足腰に装着するだけですので、雨の日でも傘がさせますし、駐車場所がなくとも、疲れずに歩いて目的地までたどり着くことができます。電車などに乗っている際にも装着し続けられれば良いので、余計な荷物になることもありません。自転車と歩行の中間を担う補助スーツ、いかがでしょうか？



山口大学グリーン社会推進研究会を設立

一人文・社会科学から自然科学までの「総合知」により、グリーン社会の実現に貢献しますー

カーボンニュートラルの達成等によるグリーン社会の実現は、人類の存続に直結する世界共通の目標で、国や地域が持続的に成長するための最重要課題です。技術イノベーションだけでなく経済社会イノベーションが不可欠で、人文社会科学から自然科学までの幅広い知見が必要です。大学には、教育研究・社会貢献活動を通じて、国及び地域の政策やイノベーションの基盤となる科学的知見を創出し、その知を普及する使命を持つ機関としての役割が期待されています。

そこで、山口大学は、2022年3月、グリーン社会実現のための基盤となる科学的知見を創出することを目的とした「山口大学グリーン社会推進研究会」を設立しました。

8つの部会を組織し、大学の研究シーズと企業・自治体のニーズの情報や意見の交換を行っています。産学公連携による共同研究に繋げ、脱炭素・循環技術などの諸課題をブレークスルーした革新的な技術や新しいグリーン地域社会システムを生み出したいと考えています。

大学の科学的知見を社会実装に繋げるためには企業や自治体等の力が不可欠ですので、この研究会には、企業や自治体も参加しており、学外会員113名、学内会員94名で構成されています。（2023年3月時点）

「グリーン社会」について

2020年10月、菅首相が所信表明演説において「グリーン社会の実現」について述べられています。温暖化への対応は経済成長の制約ではなく、積極的に温暖化対策を行うことが、産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長につながるという発想の転換が必要と訴え、カーボンニュートラル対策と経済の好循環が両立する社会をグリーン社会とし、その実現のために最大限注力することを表明しました。



山口大学
グリーン社会推進研究会
Yamaguchi University